

令和6年度第1回志木市社会教育委員会議録

日時 令和6年6月3日（月）

午後2時

～3時30分

場所 志木市役所大会議室3-3

出席委員：竹前榮二、宮原正幸、有馬隆江、一ノ倉達也、石井都、
山下美香、野島悦子、鈴木民雄、前田喜春、荻島亜紗美
中村和子、青木りえ、市之瀬初男（順不同、敬称略）

欠席委員：神谷惣治、星野祐子（順不同、敬称略）

市：土崎生涯学習課長、徳留主幹、石川主任、大澤主事補

- 1 開 会 石川主任
- 2 あいさつ 竹前榮二議長
土崎生涯学習課長
- 3 協議事項 進行：竹前榮二議長

(1) 令和5年度事業報告および令和6年度事業計画（案） 説明：石川主任

- ・令和5年度事業報告について
- ・令和6年度事業計画（案）について

事務局より説明

生涯学習・文化振興事業、人権教育事業、文化財保護事業、放課後子ども教室関連事業、青少年対策に関する事業の順に令和5年度の報告を行った。

はたちの記念式は例年、市民会館で実施しているが、建て替え工事のため志木小学校体育館で実施した。人権研修会は天候不良により令和5年度は4回の開催となった。

令和6年度は、家庭教育学級は各PTA単会で契約する予定。芸能祭は、会場の見直しを含め検討中である。また、放課後志木っ子タイムの時間で郷土文化体験を実施する予定である。

(副議長) 子ども大学はとても良い事業だと思うが、定員は決まっているのか。もっと増やせないのか。

(事務局) 4～6年生で広報活動を行っているが、至らない点があった。また

会場を両日とも十文字学園大学で行ったことで遠く感じさせてしまったことも懸念点である。今年度は、市内の会場も使用して人数を増やし、行う予定である。

- (議 長) PTA が解散しているが、生涯学習課の事業に影響はあるのか。
- (事務局) 休会がいくつかあるので、単会で動くようになっている。生涯学習課としては、委員をお願いすることがあるので影響が出る可能性はあるが、事業に関しては今のところ影響は少ない。
- (議 長) 石井委員は何か知っているか。
- (委 員) 志木小学校も縮小する方向で動いている。任意ということが全面的に出てしまっている。現在は PTA に入るか入らないかのアンケートを取るようになっている。部会も縮小しており、必要なもの以外はなくなっている。
- (委 員) 縮小の動きは全国的なものなのか。昔はあって当たり前だったが、なくなっても平気なのか。
- (委 員) 数年前から縮小ということは言われていて今年度動き出した。
- (議 長) 郷土芸能はコロナ禍の時はどうだったのか。
- (委 員) 子ども達が離れていかないように、繋ぎとめるためにリモートで行うことがあった。
- (議 長) 子ども会はどうか。
- (委 員) 入るか入らないかを聞くので、現在は16団体あるが存続が難しいところが2、3ある。子どものためにあるのでやり方が少し難しい部分がある。
- (議 長) このまま生涯学習課は今まで通り事業を組んでいって問題ないか。
- (事務局) 団体離れが進んでいるため、どう社会教育を推進していけば良いかを考えているが、どうすれば良いか検討中である。
- (委 員) 待っていてこっちへ来なさいは難しいので、少しでも参加してもらえるようにこっちから積極的に行くべき。
- (議 長) 町内会としても事業(案)を組んではいるが、場所の問題もあって難しくなってきた。中村委員はどうか。
- (委 員) 子ども家庭庁ができて「子どもまんなか」という考え方を広げる動きがある。子どもそのものに向けた事業があれば良いと思う。ネット社会とかゲームを介しての遊びなど、画面と自分だけで完結し、他人とコミュニケーションを取る機会がないため、リアルな体験ができるものが良いと思う。また、大人もそういう考えを持つ人が増えると良い。
- (委 員) 志木国際交流会では、コロナ明けでイベントづくしになっている。そこでは、世界の調味料などをテーマに新しい体験ができる場を提供している。新しい体験の場があれば、変化が生まれるのでは。

(議長) 鈴木委員はどうか。

(委員) 10月中旬にふれあい祭りをやっているが、沢山の子どもに来てもらった。体験遊びも入れて、リアルな体験を提供できれば良いと思う。また、企画はあるが、高齢化により実施できないことは課題である。

(委員) 文化協会では、文化体験道場という機会がある。すごく良い機会だと思うのでPRをより活発にしていけば、良くなるのではないかと思う。

(議長) 山下委員はどうか。

(委員) 近年はパパの育休が普通になるなど、子育ての環境が変わってきている。その中でも、ママの一人育児になるか、分担しているかの二分化となっている。環境が変わっているので、視点を変えてみても良いのではないか。ひろがる輪ではワールドファミリーラウンジというものがあり、海外の親子が来る機会があるが、その中に日本人の親子が来ることがある。それは助けることがあれば助けたいとか、顔見知りを作りたいという想いで、来てくれている。関わりたいと思っている人は確実にいる。

(議長) 環境の変化など参考にして、生涯学習の推進に向け、今後考えてもらいたい。

(事務局) ここまでの議論は、子どもが中心であるが、本来の生涯学習の対象は全ての世代である。全ての世代を対象とした施策というのは難しいので、それぞれの施策の役割、できること、やりたいことを考えたい。そのための切り口を考えてやっていければ良い。

(委員) 対象を絞って、私が呼ばれていると思う企画を作るのはどうか。

(事務局) 対象を絞ると、その対象となる少数の人しか来なくなってしまう。また、最近は多忙な方が多いため、その対象となる人に届かないことも問題である。意識をどう変えていくかを考えたい。

(委員) 文化体験道場は10年くらいになるが、伝統文化に対する意識が変わってきている。文化体験道場は参加率も良いので、そこにどう対応できるのかを考えた方が良い。

(議長) 婦人会はどうか。

(委員) 婦人会も存続の危機である。入っている方がいなくなって現在は5団体しかない。勧誘してもフルタイムで働いている方が多く、人数が増えない。また、最近は子ども達は駄菓子屋などお店でゲームをしていることが多く見られる。

(委員) 放課後の居場所がないから公園に集まることが増える。

(委員) 部活が少なくなって、クラブチームも2、3回しかないから子ども達の居場所がない。遊べたり、勉強できたりする場が必要である。

(委員) 昔と比べて習い事をたくさんする子どもが多い。子どもも大人も団体等に所属することがなく、みんながバラバラに活動しており、まとまりがないという印象を受ける。

(委員) 子ども食堂を増やすのはどうか。

(委員) 子ども食堂を増やすなら、場所を考慮したうえで建てた方が良い。八百屋などお店のすぐそばで子ども食堂を運営して、無料で配られるとお店側が困ってしまう。

(議長) 以上をふまえて、若い人を今後育てることとして、事務局には考えてほしい。

(2) 令和6年度志木市社会教育関係補助金について 説明：石川主任

- ・運営費補助金について
- ・事業費補助金について

事務局より説明

社会教育法第13条に基づき、社会教育団体に補助金を交付する場合は、教育委員会が社会教育委員から意見を伺わなければならない。

今回の運営費及び事業費補助金の算出は例年通りの方法で行った。今年度の運営費補助金については、志木市PTA連合会からの申請がないため、9団体の申請となった。事業費補助金についても9団体から申請があった。新規団体からの申請はないが、「志木第九の会」から数年ぶりに申請があった。

今年度も市民会館建て替え工事のため、開催場所が市外であっても対象としたいが、社会教育委員の皆様にご審議いただきたい。

(委員) 事業費補助金の申請団体について抜けた団体は、どこか。

(事務局) コールしおん、NPO法人クラブしっきーず、ドン・キホーテ男声合唱団から今年度は申請がなかった。

(議長) 他に質疑、意見はあるか。

(委員) ない。

(議長) 事務局案で承認する。

(3) その他

(事務局) 議題(1)の審議について、次の社会教育委員の会議でも議題に挙げるべきか。各団体の現状と課題を伺いたい。人手不足は役員なのか参加者なのか、団体加入に抵抗感があるのかなど、各団体の特有の課題を知る必要がある。

(議長) 意外と食わず嫌いみたいなことがあって、団体に加入してみると、

生涯の友達が出来た人もいる。

- (委員) 入りたいけど、どこかのグループに所属していてその人たちが入らないから、入らないという人もいる。また、環境が変わって60歳でも働いている人が増えているので忙しくて入れない人もいる。入りたくてもその団体に入りづらいと見られていることもあるので、どう混ざり合うのかを考えるべき。
- (委員) 気持ちのある人はいるけど、忙しくて難しい人が多い。参加したら楽しいと思えると思うが。
- (委員) 私の団体の話ではあるが、会長、名誉会長から団体を受け継いだ時、自由にやっつけていいよと言われた。今、活動している年齢層も下がっている。歴史ある団体は、こだわりはあると思うが、一旦こだわりを抑えて見てみるのも良いと思う。
- (議長) 議論していく中で見えてくるものがあるので、そこで検討してほしい。
- (副議長) 生涯学習を推進するための案を出していくのも良いと思う。
- (事務局) 今回の議論を参考に、今後検討していく。

4 閉 会 有馬隆江副議長